

令和六年度入学試験問題（帰国生徒特別選抜）

小論文

人文社会学部 琉球アジア文化学科

注意事項

- 一. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。問一は表面、問二は裏面に書くこと。
- 三. 解答用紙の他に、下書き用紙を配布するので、取り違えないように注意すること。
- 四. 解答時間は、一二〇分である。
- 五. 縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

※ 非公開

問
題
文

※ 非公開

※ 非公開

※ 非公開

(鵜野祐介『遠野物語』の人間学へ―「きくこと」をめぐる断想―『現代思想』七月臨時増刊号、第五〇巻第八号、青土社、二〇二二年、五一―五五ページ、抜粋・一部改変。)

問一 傍線部について、どのようなことを表しているのか、筆者の論旨に沿って六〇〇字以内で説明してください。

問二 「きく」ことと「かたる」ことについて、具体例を挙げて自身の考えを六〇〇字以内で述べてください。

令和六年度入学試験問題（帰国生徒特別選抜）

小論文

人文社会学部 琉球アジア文化学科

出題の意図

琉球アジア文化学科は、琉球・沖縄、日本、中国大陆、台湾、朝鮮半島などのアジア文化圏における言語、文学、歴史、民俗などに強い関心と学習意欲を持ち、地域による文化の違いと類似性に目を向けつつ、主体的・積極的に研究できる人を求めている。したがって、本学科の入学希望者には、これら諸地域の文化への深い関心はもとより、そうした文化を生み出す社会の仕組みへの持続的な探求心と、根拠ある主張を論理的に展開できる力が要求される。問題文は、鶴野祐介氏が『遠野物語』を論じた文章を用いる。ここでは、「きくーかたる」ということについての連関性と、それがもたらす社会的な伝統性および継続性について、耳を傾けることの重要性を述べている。また、「きくーかた」る」ことが個々の生を変容させ得るものである重要な要素であることについても言及している。本出題の意図は、「きくーかたる」ことがどれだけ個人の生に影響をもたらすのかということについて、どのように考えているのか、自身の身近な社会の中で繰り返されていることをどう意識しているのかを問うものである。それを通して、文化とはどのようなものかを考えるうえでの感受性・共感能力・理解力についての論述をしてもらい、受験生の理解力および独自の発展的な思考力や論理構成力、言語表現などをみることにある。